

雪害・只見線視察 (冬期体制調査・オルグ)

NRU 国労せんだい

N0. 2458
2006年2月6日
発行責任者 太田博二
編集責任者 五十嵐敬



ロモ (MC) 除雪

・設備職場の保線では、ラッセルを前日あるホームに衝

・1日目は只見線の土砂崩壊現場、橋げた落下衝撃現場も見ることができました。
・2日目も会津若松地区組合員の協力により、1グループはこの地区の現業機関、2グループは仙建の機械除雪の勤務体系などの調査のため分かれての行動。
・会津若松運輸区・郡総セ

1月7、8日、会津地区に冬期体制調査として国労仙台地本、橋本・中島両副委員長、五十嵐・佐藤両執行委員、工務協から大村副議長、真屋事務長が参加し、福島県支部、会津若松地区組合員の多大な協力により、会津宮下・只見・会津川口の各駅の除雪時の大変な労働実態や降雪・積雪の状況を見て一定の職場要求も聞くことが出来ました。

ンター派出では、感電事故で大怪我をした土屋氏の職場状況を確認でき、ト

イレなどは本人使用はもとより、職場で多くが使用して感謝されている状況も報告されました。

・福島県運輸区構想による合理化で、郡山総合車両センター会津若松派出所になった検修職場では、本所からの連絡が不十分のため職場で支障している状況も語られた。また、この大雪で列車の併合・分割時、列車間の隙間が凍結により狭くなっ

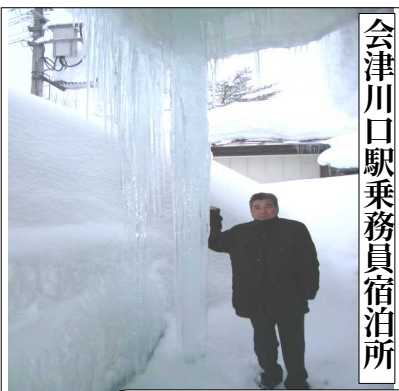
ていて体を横にしての作業の困難も語られ、融雪地上設備の必要性も明らかにになりました。



土砂崩壊現場

撃させ、今冬使用不能、今後はMC対応になる。
電気・信号通信職場では、障害時の対応にこの時期、往復5時間かかり超勤が多く発生している現状が報告され、機械除雪は仙建が実際施工している現場に遭遇し、線路から国道を越し、只見川に雪をロータリーで飛ばしている状況が見れました。
・除雪の勤務体系が一旦出勤したら二十四時間拘束も多々ある現実も、仙建会津若松出張所の勤務表からも

確認でき、また、法定超勤時間も遙かに超えていることも語られています。
・今回現場を見て次のことが明らかとなりました。
①豪雪地帯にもかかわらず設備が貧弱（お金をかけない）。



会津川口駅乗務員宿泊所

大変危険な屋根の雪と氷柱 (除雪の時間と要員不足)



会津宮下駅施設



② 駅員の業務内容が多様 (要員不足)
③ 仙建工業の業務体制の問題 (要員不足)
④ 駅の地上設備の不備 (融雪装置等・お金をかけない)
等々であり、今後の要求に生かしていかなければと全員が感じました。

また、帰り足でありましたが、郡山南部現業の信号通信・電力の職場も訪ねることが出来ました。
・今年は、昨年に比べて当初は雪が少ない予想と



MC内部

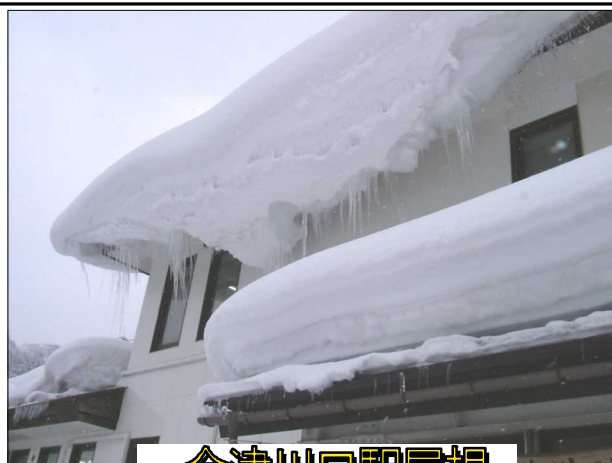


当局も言っていた。その基での今回の対応で、その弊害が、駅・乗務員・協力会社含めての社員等にしわ寄せがきているということでした。

今冬の対応に間に合うものは、緊急に対応が必要である。そうでないものは、次期に向けての要求に反映させなければならない。



会津川口駅ホーム積雪



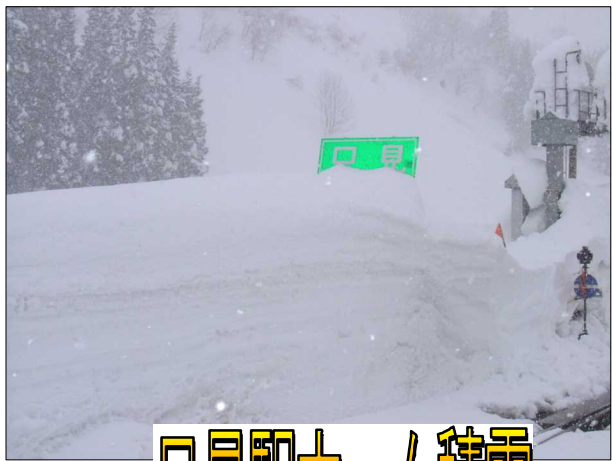
会津川口駅屋根
(乗客通路上の積雪)



只見駅ホーム積雪
(ホームの手すりが見える)



只見駅出入り口
(乗客通路の積雪)



只見駅ホーム積雪



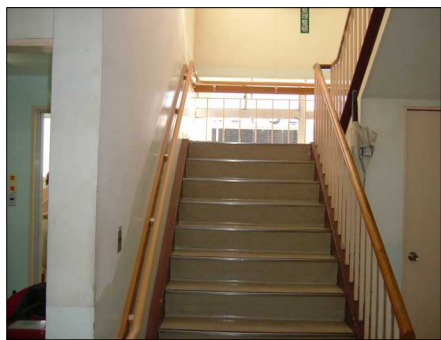
検査修繕も着雪との闘い
(切実な要求スチーム設備)



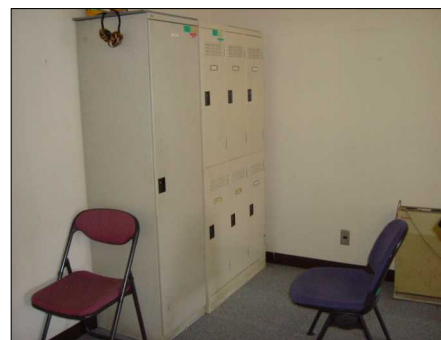
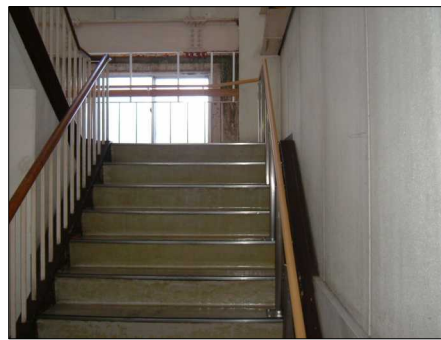
堅く凍った線路の雪
(大変な分割・併結)



会津若松駅での作業
(大変な分割・併結)



土屋守さん職場復帰と職場改善



弱者に優しい環境は、健康な人にも大変良い環境でもあります。同じ環境でも年令と共にがきつくなるのは誰でも同じです、職場環境も労働条件の一つです。

郡山総合車両センター
(若松派出所)